

## 花巻市石鳥谷地域協議会 平成 23 年度第 4 回会議 会議録

### 【日 時】

平成 23 年 11 月 24 日（木）午後 3 時～午後 4 時 50 分

### 【場 所】

石鳥谷総合支所 3 階 大会議室

### 【出席者】

地域協議会委員 7 名

（欠席委員：長澤勝美委員、田中由一委員、鈴木俊一委員、主濱芳江委員、伊藤賢治委員）

市側（支所）：菅原石鳥谷総合支所長、伊藤地域振興課長、関地域支援監、照井市民サービス課長、市民サービス課小原課長補佐、地域振興課佐藤課長補佐、高橋課長補佐、清水地域づくり係長、熊谷主査

### 【協 議】

○石鳥谷地域課題について

- ・第 1 回会議で提案された課題について、継続して内容を協議した。
- ・第 2 回会議において委員から提案があった課題について協議した。

### 【その他】

会議を傍聴した者 なし

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における配付資料は以下のとおり

「石鳥谷地域における地域課題について」

「自主防災組織等による安否確認・情報伝達マニュアル（案）抜粋」（資料 1）

「平成 23 年度敬老祭事業内容について」（資料 2）

## ※ 顛末

○ 進行／伊藤地域振興課長

1. 開 会 伊藤地域振興課長が開会を宣した。15：00

## 2. 挨拶

### 菅原昭造会長

いろいろとご都合があったと思います。万象繰り合わせてご参集いただきありがとうございます。第4回の会議でございますが、平成23年度の会議に関しましては、あと1回、今年度の会合は第5回の開催といたしたいと考えます。市からの諮問があった場合は別ですけれども、こういう仕組みの中での協議は第5回を目途としたいと思います。2月あたりを第5回目の開催としたいと思います。したがって、今日の話合いをベースにして、2月には今年度の協議のまとめをしていきたいと思います。その扱いにつきましても本日いろいろとご意見を賜りたいと思います。コミュニティ会議で実際は役割をしていただかないと、ここで話をしても前に進まない問題もありますので、6つのコミュニティ会議にいろんな形でご提案するなり連携するなりの場を考えながら、今日はお話をいただければありがたいとそう思います。

## 3. 協議

### 菅原昭造会長

本日お手元にお配りしております資料の中の、課題の取り扱いが継続審議、課題検討継続となっているものが3つございます。（課題読み上げ 略）前回の会議で一応のまとめをいただいたものがございますが、それ以外の継続となっているものを話し合いたいと思います。

まずは、(3)町のイメージを高めたいということについて、その後何かご意見ございましたらどうぞ。

先程申し上げましたとおり、2月にはまとめを行いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。資料は3ページです。

### 川村茂委員

私自身がわからないから聞くのですが、町民の皆さんがこの町についてのイメージを考えたことがあるのかということです。例えば、この町は花もいっぱい植えて人が集まるようにしたいとか、例えば、岩手県のシンボルになろうとする何か注目されるものを建てるとか、そういうアドバルーン的なものが上がってれば、皆さん何か描くと思うのですが、今まで話した内容からすれば、一体何になるのかというような状況だと思います。だから、よく、子ども達の発想を形にし

ましたというようなことがどこにもあるわけですが、今までの中ではそれすらありませんでしたので、そのビジョン的なものが何なのかということはどうしたらいいかということから考えないと、簡単には出来ないのではないかと思ったところでは。

(藤沢町の事例紹介 略)

もう一つは、酒の町石鳥谷と言っても、酒の歌全国大会は今年から紫波町で開催することになってしまい、全く一貫性のない形で置き換えられてしまいます。また、福祉の町と言っても、老人が多いから福祉の町というのも飛躍した話で、そんな単純な話じゃないと思います。

### 菅原昭造会長

ずっと何十年前から、酒の町と言ってきていても、実際に操業しているのは南部関さんだけでしょう。紫波町のつくり酒屋は全部ありますね。その違いから、有名人のイメージを、というようなことが出てきたんでしょう。イベントも然ることながらイメージアップ戦略をどうしたらいいか。ということでもあります。どうしたらいいでしょう。“有名人のふるさと”というようなことでのイメージを利用したことはできるのではないかということまで前回までは話がありましたが、それだけでいいのかということでは今日は再提案ということでは。

石鳥谷地域という限定されたコミュニティで何か旗を挙げたいなという思いはあるのですが。

### 藤原真紀男委員

確かにイメージと言っても、先程来言っているように、人それぞれ違うでしょうね。ただ一つははっきり言えるのは、いつの時代も、時代なり社会を変えていけるのは、若いエネルギーであるのは確かであると思います。コンビニや携帯電話、パソコンも、結局我々も後追いして使っていて、若者のニーズからそういう物が出来てきているといった気がするんですね。いずれ石鳥谷町の地域なり社会、商店街や地域農村というものもどういった形かには変わっていくと思うんです。そういうものが、何かわからなくても、これを変えていくというのが若い世代だということになってくると思うんです。

池野恋さんに何かイメージアップで描いていただくとしても、やはりいろんな条件が必要になってくると思うんです。これが何十項目になるかわかりませんが、そういうようなことを一つ、イメージアップをするための絵をお願いするにしても、それを描くにあたってどういうものをイメージしていけばいいか。そのベースになるものを若者に参加していただいて集約した意見をもって、池野恋さんに将来の石鳥谷町のイメージというものを描いてもらう、そういうような方法も一つあるのではないかと、一つの案として、以上です。

### 菅原昭造会長

先程は、資料3ページには今まで話したことをまとめていますが、駅前広告塔あるいは、池野恋さんの作品の紹介コーナー等を考えていく等の意見が出ましたが、その前提としてそのイメージを捉えるいろんな方法がある、というお話でした。

#### 川村茂委員

今、各コミュニティが地域のねらいについて図式化する、絵にして表現するという活動がされていますが、それらが出揃って共通点が見いだせるなら、また、それも一つの手法ではないかと思います。各地域が何を考えてコミュニティを将来引っ張っていくのかという絵を描きなさいという指示が出されておりまして、それらが揃った時に石鳥谷町という町が何を狙っているのかがおよそイメージされると思います。

#### 菅原昭造会長

ということは、各コミュニティ会議では、例えば八重畑なら八重畑のビジョンを絵にするとということですね。

#### 川村茂委員

単純にイメージといっても、地域全体を考えていくのだから、それぞれの地域が何を狙っているのか、考えているかが、およそ揃った時点で考えるのも一つの方法かと思います。

#### 菅原昭造会長

なるほど。その取り組みは各地区でやってるんですか。

#### 川村茂委員

はい。

#### 菅原昭造会長

そうですか。菅原久男さん、大瀬川でもその取り組みをしていますか。

#### 菅原久男委員

大瀬川では、地域ビジョンを作成した時に、地域づくりをしよう一応絵にしました。それでいいかなと思っています。

#### 菅原昭造会長

大変心強いご発言をいただきました。各地区コミュニティ会議でやっている取り組みを総体的に繋ぎ合わせれば形が出てくるというご発言であったと思います。ということを含めて、この課題にフィードバックしますが、広告塔とか紹介コー

ナーというような具体的な事柄については今後どう扱ったらよろしいでしょうか。池野恋さんなどを想定した場合ではどうでしょう。

#### 川村茂委員

一時的に表現できても、もう少し今話したような皆さんの考えている内容をつかみながら議論するべきだと思います。一つのものにこだわっていると取り返しはつかないのではないのでしょうか。

#### 菅原昭造会長

そうしますと、町のイメージといいますか、地域づくりの基本的な考え方については、今まで話合ったことはそれはそれとして大事にしながら、今、コミュニティ会議等で検討されている地域のビジョンといいますか、それらがまとまりつつあるようですから、それらの中に今まで話があった漫画紹介といったことも位置づけていくというような仕組みになるのではと思います。むしろいくつかの具体的なものが更に出てくれば説得力が出てくるのかなと思っております。この考え方でよろしいでしょうか。

#### 川村茂委員

はい。

#### 菅原昭造会長

あとご意見ありませんでしょうか。

#### 菅原久男委員

池野恋さんの話ですが、造り酒屋はどちらかと言えば経済動向に左右されるというか、利害関係というか経済の恩恵を受けるというかですが、池野恋さんの場合は本当にイメージを出すということで、景気がいいから悪いからといってイメージが崩れるものでもなく左右されることもないから一つのイメージを作ることとしては非常にいい案だなと思いました。それでは、いかにして何をどうやるんだということを決めればスタートできそうな気がします。

#### 菅原昭造会長

そうですね。地名度を高めるという一つの意味からすると、池野恋さんの紹介コーナーは有意義だと思います。むしろ当然、あらえびすの様に有名人を看板にすることのように、知名度を高めることになると思います。それとコミュニティ会議で色々進めている地域のビジョン。5年後、或いは10年後をどう考えるかということの接点を考えていく、その辺を議論していく必要があることだと思います。

### 菅原久男委員

スポーツの話題ですが、マレットゴルフという生涯スポーツで全国組織のスポーツがあるんですけども、実は来年度岩手で全国大会をやってくれないかということ本部から言われています。もし来年やるとしたら会場は石鳥谷です。会場予定地だった田野畑が津波で出来ないためです。文部科学大臣杯は新潟県でやってもらいましたが、来年、復興協力ありがたい大会が必要じゃないかと言われていますが、するとすれば大正橋公園しかないんです。県協会との体制がなかなか取れなくてまだ返事はしていません。石鳥谷は一度全国大会をやっているんです。花巻の協会には、もし体制を整えば受けると言っているんですが。大会開催は一時的なものですが、平成17年に石鳥谷でやったということは、全国でもみんな覚えています。

### 菅原昭造会長

地元の方は覚えていらっしゃいますでしょうか。

それは、菅原委員さんからお話があったとおりなんです。スポーツイベントはある意味では知名度を高めるには有効なんです。長続きするか、地元がどう考えるかは別にして。インターハイの誘致も、国体の誘致も全部それだったんです。

マレットゴルフというのは、ご存知ですか。

### 菅原久男委員

ここでは、関支援監さんが当時、生涯学習課におりまして、協力いただきながら一生懸命運営したんです。

### 菅原昭造会長

ゲートボールのスティックを使ってパークゴルフ、グラウンドゴルフと同じような競技内容なんですけど、田野畑のマレットゴルフ場が完全に津波で流されましたので、こちらにお鉢が回ってくるというお話です。

石鳥谷にあるパークゴルフコースとはスケールが全然違うんです。パークゴルフも、マレットゴルフもある程度の規模があっという間にいろんな意味でゴルフ団体もあり、ゴルフ場を整備して全国規模の大会になれば地名度もアップするという訳です。マレットゴルフはどこの人口が多いですか。どこで開発したんですか。

### 菅原久男委員

福井が考え出して、石川県が正式な名前を付けて登録したと聞いています。

### 菅原昭造会長

ゲートボールとパークゴルフの発祥は北海道です。マレットゴルフだけが本州です。そういうスポーツイベントの誘致、開催は短期間かもしれませんが、知名度、イメージアップ戦略には有効なようです。

いつも思うんですが、光林寺さんでいろいろとイメージアップにつながるようなユニークな事業が多いですね。ああいうものを石鳥谷地域全体に波及出来ないのかなという感じがしますよね。寺子屋ばかりじゃなく、寄席などは大変な反響があります。

#### 菅原久男委員

競技会は一時的なものですものね。池野恋さんはもっと少し長くイメージアップ出来るんじゃないかと思います。

#### 菅原昭造会長

大会は一時的であっても、インターハイでは日本一のソフトボール競技場が残りました。それと同じように考えると、マレットゴルフも全国大会で大正橋の河川敷コースが残るということですね。あと何かございますか。熊谷さんいかがですか。

#### 熊谷幸雄委員

ありません。

#### 菅原昭造会長

ルンビニーさんは寄席の開催など、有名人の招聘で知名度を上げている事例がありますが、そのようなことも一つの方法ということもあるかと思います。

皆さん、ご意見ございませんか。

#### 川村茂委員

さっき話が出たように、各コミュニティ会議のまとまりが出たら、各コミュニティの方々と一緒に議論を進めたいかがですか。

#### 菅原昭造会長

はい。いかがでしょうか。コミュニティ会議の方で今、そういう検討をされているようです。次回の会議は1月でしたでしょうか。それあたりまでに、私たちの方でも連携を取りながら、情報をお聞きしながら、2月の最終的な会議までに、何らかの方向付けをするという、こういう提案であります。こういう方法でよろしいでしょうか。この、ここに書いてある意見は全部尊重するという前提に立って、今コミュニティ会議で色々検討されているようです。それらを基本的なものとして位置付けて、方向付けを考えていく。その方向付けを処理するための会議を2月に招集するというにしたいと思います。

川村さんのご指摘のとおりコミュニティ会議との連携をしていきたいと思えます。あわせて、今日の会議のことは、それぞれのコミュニティ会議の役員の方もおりますので、繋ぎをしていただきたいと思います。

それでは、2番目の協議内容ですが、協議継続ということで高橋貢委員さんからご提案のありました、婚活について話し合っていきたいと思います。農家に限りませんね。コミュニティ会議でもこのことについて話題は出ていますか。

**菅原久男委員**

今のところありません。

**熊谷幸雄委員**

八日市もありません。

**川村茂委員**

八重畑は、話を出しても聞き入れてもらえません。

**菅原昭造会長**

地域のことを良くご存知の民生委員さんだから出たことだと思います。  
高橋委員さんどのように扱ったらいいでしょうか。

**高橋貢委員**

実は、新堀コミュニティ会議の方で、2年に一回くらい住民に地域要望だとか地域課題だとかのアンケートを取っていますが、その中に、この問題が必ず何件か出てきます。では、今まで委員の皆さんが話し合ったように具体的に解決方法を検討したかという、正直言ってしていません。前回もお話しましたが、昔は仲人があったが今は世話をする人がいない。あればそういう人に謝礼等を支払うという方法もあっていいのでは、と個人的に思いますが、今、具体的にそういう人がいるかいないか分からないんです。

ただ、これからどんどん少子化が進むと子どもや孫の世代はどうなるかと思って、皆さんなら何か意見を出していただけるかと思い提案したものです。

**菅原昭造会長**

高橋委員さんのお気持ちは十分、わかります。全くそうですね。  
淵澤委員さんいかがでしょうか。

**淵澤節子委員**

私もわかりませんね。困りましたね。周りにいっぱいいるので、何かで集まった時も孫のことは禁句です。

**菅原昭造会長**

孫の話は禁句ですか。

### 淵澤節子委員

はい。前からそうなんです。

### 菅原昭造会長

菅原委員さん何かないですか。

### 菅原久男委員

こればかりは、人から薦められてするものではないからね。

### 菅原昭造会長

どこかの自治体で、報奨金制度を採っているところもあるようです。成果はわかりませんが。社会福祉協議会で今年も、花巻温泉で期待を込めて出会いの場を作ります。

各方面で、出会いの場を設けてはいるようですが、知らない方もあると思います。情報を皆さんにお知らせして危機感を持っている独身の方にお伝えする努力は私共もしていくということです。とこういうことでよろしいでしょうか。

よろしゅうございますか、高橋さん。

(高橋委員頷く)

### 菅原昭造会長

3番目は継続協議の中では、個人情報管理の問題。大震災の場合のことばかりでなく、1人暮らしの方々の安否確認について大切なことですが、個人情報管理の事と上手くいかないという提案ですよ。

民生委員さん方が震災のとき安否確認をしていたんですが、そのことに関してはその後どうですか。

### 高橋貢委員

秋に市の方から説明がありました。別紙資料も頂戴しているのですが、災害に関わるマニュアルを検討しているという説明会がありました。また、民生委員の会議でも民生委員だけが災害の時安否確認をするのは、やはり限界があるだろうと、どういう風な方法ができるのかというと、自主防災組織であろうと。自主防災組織があるところはそこに民生委員が入って行って、いろいろ対応していくと。まだ自主防災組織が出来ていないところには、行政が区長さんを中心にして、あるいは自治公民館組織が強いところや同様の組織が機能しているところは、そういうところを中心にして対応していくしかないというのが、市の考え方だと。万が一災害が起きたときには民生委員が持っている情報公開をする事はやぶさかでないということは聞いているんですが、非日常的な状況以外では、やはり問題があるということでした。特に地域で民生委員の数が減っていると、特に石鳥谷も

ですが、複数行政区にまたがっている民生委員が多いということがあります。自主防災組織が八重畑は形の上では全部出来ているんですが、民生委員が入っていないところもあり、今後の課題かなと思っています。

### 伊藤地域振興課長

今、高橋委員さんが言われた各地区で行われた自主防災の会議ですが、そのことについて若干説明いたしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

佐藤地域振興課長補佐 資料1により説明。

### 菅原昭造会長

はい。ありがとうございます。この資料1の提示がされておりますが、こういう形になりますと、高橋委員さんから提案のありました件はかなりきちっと仕組みが出来てくるという感じですが、そういう受け止め方でよろしいでしょうか。緊急時には、民生委員が持っている情報も、行政が持っている情報も提示してそれぞれ提示して対応できるその場が自主防災組織なんだと理解しました。よろしいですか。

### 佐藤地域振興課長補佐

追加ですが、情報関係です。民生委員さんが持っている情報と消防団が持っている情報をどの程度まで開示出来るのかということは会議の中でも出ております。市の方ではまだ、具体的にこういう方向でということは出さなかったわけですが、高橋委員さんが言うように、有事の際はこれらの情報を使って動くということは必要になるということ是被言われていますが、今後どのような方向にもって行くのがいいのかは、詰めなければならないという話になっていきますし、それぞれの地域で地域独自の情報を持っているという話もありましたので、それらの情報を使いながら安否確認をしていくということになろうかと思えます。そのため、情報開示のことについては、更に検討されていくのではないかと思います。

### 菅原昭造会長

法律に書かれていることを曲げる訳にもいかないわけですが、有事の際にはかなり拡大解釈をしなければならないということもあるだろうということですよ。この資料を見ますと、八日市、大瀬川は出来ていないですね。私の地元もそうですが、緊張感がないですよ。水もかぶらないし、災害の心配がないところがどちらかと言うとのんびりしてます。自主防災組織が6年前から言われていて何度も説明を受けていますが、6年かけてここまで来たという感じですよ。

大瀬川はどうですか。

### 菅原久男委員

今年度中には発足させる見込みです。

**菅原昭造会長**

八日市はいかがですか。

**熊谷幸雄委員**

3月です。

**菅原昭造会長**

そうですね。そうすれば、東日本大震災のときの不安はだいぶ解消される、大幅に改善されるということでしょうか。継続協議となっていた個人情報適切な管理についての震災関連については、自主防災組織がそれぞれに機能すれば情報の適切な開示かどうかは別として要援護者に対する支援は大幅に改善されるということで、この課題についてはまとめさせていただきます。

課題の取り扱いは以上であります。特筆はしてありませんが、今回同時に敬老会のことについて資料2に提示してあります。敬老会についてはそれぞれに吟味されておりまして、いろいろな改善策があるかと思いますが、今年度についてまとめていただきました。説明をお願いします。

**伊藤地域振興課長** 資料2により説明

**菅原昭造会長**

大体の参加率は、平均は51%ですか。

**伊藤地域振興課長**

参加率31%もありますし、平均は36.9%、約37%です。最高で51%です。

**菅原昭造会長**

敬老会のことについて、皆さんの方から気がついていることがあったらどうぞ。八重畑はどうですか。

**川村茂委員**

この前も話したんですが、こういう状況にあるということは共通認識になったわけですから、敬老祭のあり方について来年に向けて議論してもいいのではないかと思います。今75歳以上に案内していてこういう状況ですから、敬老の尊さを消さないで今後末代継承していくとすれば、年齢の引き上げがあってもいいですよ。そうなってくるとやり方や方法が改善できるし、経費だって節減できる。その分福祉に回せばいいし、私はそっちのほうが大事だと思います。元気な人は、

まだ敬老会に行きたくないと思うし、それぞれの思いはそれぞれ違うけれども、改善すべき時期に来ているのではないかと私は思います。

### 菅原昭造会長

花巻市内で出席率が40%内外だということはそのとおりですね。どうしたらいいかということは各団体で検討されていることだと思います。民協さんはいかがですか。

### 高橋貢委員

民生委員は各地区で敬老祭に関わっていると思いますが、新堀に限って言いますと、私も何年か担当していますが、年齢は上がっているけれども、参加率が減っているというのは確かです。新堀の状況は、やはり80を過ぎるとぐっと減っています。一つの目安は喜寿77才にあたっていると元気な方の出席率がいいのと、75才になるのを待ってる方と、まだまだ行きたくないという方といらっしゃいます。米寿となると身体的なこともあって参加者は少ないです。出席した方からは、「お祝い事で楽しかった」、「同級生、知り合いの出席があつて嬉しかった」という感想をいただいています。また、以前は家族の方の送迎だったけれど事情があつて出来ないという方へは、新堀ではバスを出して、出来るだけ戸口から戸口へと送迎しています。参加していただいている方々には、ある程度ご理解いただいているのかなと思います。ですから、また来年もと声をかけていただくこともあります。

### 菅原昭造委員

八日市の出席率がいいのは、なるほどと思いました。サッカーの入場方式で子どもたちと手を繋いで入場します。その結果がこういう結果に出ているのかなと、今見て思いました。すばらしいアイデアだと思います。

### 熊谷幸雄委員

手をつないで入場して花束を渡しています。子どもが多いときは保育園で間に合いましたけれども、今は小学生も参加しています。会場は、51%の参加率でもういっぱいになっています。（運営について内容紹介 略）参加年齢については、会場が入らないからどうしようかというところ です。

### 菅原昭造会長

元受けの社会福祉協議会では、新年度の予算要求を前年並みで行っております。各方面で検討はされていますが、スペースが入らないからどうしようかという所はあります。県内では、喜寿、米寿に限って節目敬老会というところもあります。花巻はそういうわけにもいきませんから、年齢を上げてはという話が出ているわけです。東和町は22会場で部落公民館単位です。理想ではありますが大変なこ

とでもあります。花巻は24年度については現状維持ということで進んでおります。資料2については、現状の報告をいただきました。今後も継続ということで進めさせていただきます。

#### **熊谷幸雄委員**

市長さんに言ったことがあります。出席率で補助をあげてほしいと思います。皆さんいかがでしょうか。コミュニティから予算を出してならんということもありましたが。

#### **菅原昭造会長**

監査委員から出た話で、市の補助の二重払いではないかということでしたが、今は、コミュニティ予算は飲食代を除く運営費に充てるということで難しくはなくなりました。合併時は、敬老祭と敬老会という呼び方まで話題になりました。ということで、今日はこの辺で敬老祭については閉じたいと思います。今後も、合併後の調整がされていくものと思います。要望的なものはどんどんあげていくことが大事だと思います。

続いて、放射能の問題について、説明をお願いします。

#### **伊藤地域振興課長**

前回からその後、市の動きがありましたのでご報告いたします。

**照井市民サービス課長** 簡易型放射線測定機の貸し出しについて説明。

#### **菅原昭造会長**

ありがとうございました。

#### **川村茂委員**

この放射能については全くわかりません。国、県など言っていることが全く違っているからです。（新聞記事を引用 略）新聞やテレビで近隣の情報を知り、花巻ならどうなのだろう等と思うのに、皆さん（市役所）はその説明もないし、子どもや孫の世代がどうなるのかの説明もない。今何ともないからまあいいか、大丈夫だろうということかもしれないが、それを知りたくて騒いでいるのではないかと思います。そのことを今すぐ答えろというのではありません。市では情報を蓄積し、それを市民へ伝えるべきではないかと思うのです。

#### **菅原昭造会長**

未知の分野です。チェルノブイリのことを考えれば、科学者でもおそらくは明快な見通しは立てられないかもしれませんが、肝心なことは、情報は必要なものをしかもタイムリーに開示していただきたい。そういうことですね。

## 川村茂委員

継続して観察していくことが必要だと思います。単なる情報だけで、悲喜交々に喜怒哀楽を表すのではなくて、やはり目に見えないものなので近隣に放射性物質の情報があったら、花巻に来ないというのはなぜなのかとか、岩手県の牛馬に出ているとなれば、ほかのものにはどうなのかとか。山中にはたくさん溜まるけれども、町場は洗い流せばなくなるという話もあり、私たちはどう考えればいいのか。

## 菅原昭造会長

今日話し合われたことは、2月にあと一回会議をして平成23年度に話し合った事項を整理してまとめたいと思っております。

そこでお諮りをいたしますが、この地域協議会は実践組織ではないわけですが、いろんな機関や団体に提案、提言、提示をして、この地域の市民のために資することとあります。そういう意味では、石鳥谷地域だけではないですけれども、実践の戦力といいますかエネルギーを持っているのはコミュニティ会議と思っておりますので、コミュニティ会議の代表者の方とお会いする機会を用意していただければ、その機会に整理された協議の内容、或いは要望事項をご説明申し上げまして、お互いに共通理解し、同時に市当局等に対しましても要望があれば伝えていきたい、そんなふうに思っております。そういう意味で、今日はコミュニティ会議のそれぞれの立場の方もいらっしゃいますので、先程、若干申し上げましたが、コミュニティ会議の際には地域協議会の協議事項の概要を、お話で結構ですのでお伝えいただきたいと思います。そういうことを含めて、今後取り組んで参りますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。そういう扱いにしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

(頷く者あり)

## 菅原昭造会長

そういう形で進めて参ります。最後になりましたが何かございますか。

## 藤原眞紀男委員

確認ですが、この資料1の自主防災組織についての2ページの図の中にある要援護者の支援という「支援」は何を意味しているのでしょうか。

## 佐藤地域振興課長補佐

図では一つの例として載せているもので、各自主防災組織と民生委員さんが相互に連携をして要援護者の安否確認をするということとあります。これはこういう形で班長さんが行うことになっていますが、それぞれの実情や組織によって連

携の形は様々な形があるとお考えいただきたいと思います。

#### **藤原真紀男委員**

先程、民生委員が少なくなっているということから、民生委員だけでは安否確認が難しいということが言われている中で、要援護者に身近な班長にこの線が繋がっていないのはおかしいということと言いたかったわけなんです。

#### **菅原昭造会長**

なるほど。

#### **川村茂委員**

八重畑でも自主防災組織は活動しているわけですが、私が主張するのは、災害時はその場にいる人で対応しなければならないということです。組織がなければならぬということではないんです。その意味で、私が進めようとする防災組織の原点は班内で、地域の中で皆さんが地域の中をよくわかっているようによく議論して、認識してもらわなければならないということです。班長や民生委員がいないから何もできないではなく、原点はそこに防災組織の活動があると思うんです。そういう風な訓練を重ねていくことによって地域住民の意識と行動が一致すると。そこまで行くのに2年かかるか3年かかるかわかりませんが、何回でもいいから、年に一回は防災の日を決めたりして班の中で議論をし、隣の人どこに行っているとか空家はどこに連絡すればいいとか、極端な話は家族の行き先まで聞いた上で地域の防災が成り立つと思っています。私たちは行政主導の防災に頼るばかりでなく、防災組織自体にそういうふうな自覚を浸透させて活動させることによって他人事ではない活動になると思っています。以上です。

#### **菅原昭造会長**

これは、一つのモデルとしてのパターンでしょうし、冒頭に自主と書いてありますので、それぞれの組織の中でもっとも効率的な、しかも実態にあった組織と運営するのが相当だと思います。これはモデルパターンですからそういうことでの提案であったと思います。

あとございますか。それでは4回目の会議は以上にしたいと思います。大変お忙しいところご参会いただきましてありがとうございます。

## **4. そ の 他**

菅原昭造会長より厚生労働大臣表彰受賞の報告とお礼があった。

## **5. 閉 会** 菅原久男副会長が閉会を宣言した。16：50